



5日20日、父母の会総会、親子レクに参加された保護者の皆様、お疲れ様でした。総会後、今年度から3歳以上児を異年齢でクラス編成することについて説明する機会をいただき、ありがとうございました。クラス担任から保護者の皆さんの中に不安や不満を感じている方がいらっしゃるかと聞いていたので、保護者の皆様のご理解をいただきたいと考えていました。保育園での生活、遊びが子どもたちの育ちにとって必要であることはある程度ご理解いただいていると思っています。3歳以上の子どもたちにとって異年齢で過ごす時間が岩根保育園の目指す保育実践を更に高めることにつながると考えています。心身ともに健全な育ちのために遊びを通して何を育てたいのか、生活を通してどのような心情、意欲、態度を育てたいのかといった観点からもさまざまな年齢の子どもたちと関わることは良い機会になります。保育園には、保育士養成学校の保育実習生、木更津看護学院学生の保育体験、中学生の職場体験、保護者の皆さんの保育参加等で様々な年齢の人たちと触れ合う機会があります。また、散歩の際に出会う地域の皆さんとの触れ合いも子どもたちにとって必要です。日々共に過ごしている保育者以外のこうした人たちとの触れ合いは、子どもの育ちにとって必要不可欠と考えています。

誕生から小学校入学までの6年間は、人としての成長にとって最も重要な時期と言われています。岩根保育園は創立以来の保育目標「明るく 正しく、たくましく」を今日まで掲げています。時代とともに保育目標の解釈を変えてきました。私は「正しく＝情操豊かな子ども/(他人の喜びや苦しみ、悲しみを自分のこととして理解できる子ども)」を最も重要な目標と考えています。自分中心だった子どもがさまざまな経験を通して他者に思いを寄せることができるようになる、集団で生きる人として最も重要なことだと思うからです。

保育園では、給食など全員で取り掛かる必要のある場面で「絵本読み」をしています。子どもたちの注意を絵本に向け、次の場面に切り替わるきっかけにしています。子どもたちは絵本が大好きです。保護者の皆さんや保育者など、親しい人が読んでくれることを喜びます。絵本はおもちゃと違ってそのままでは子どもに楽しさが伝わってきません。絵を見せてもらい文字を読んでもらって絵本の世界に入っていくことができます。大人に時間的なゆとりがない時は、子どもにせがまれても読んであげることができません。おもちゃのように「これで遊んでいて」と言えないのが絵本の悩ましさです。

今年度の父母の会総会で、父母の会から絵本をいただけることになったと聞いています。子ども自身の体験から得られない世界や体験を更に知識として深めていくためには絵本の力が必要です。子どもたちに読んであげてほしい絵本の紹介やクリスマスプレゼント等(父母の会との共同)で質の高い絵本を提供することで、保育園はもとよりご家庭でそれぞれのペースで絵本読みをしていただきたいと思います。2月から家庭への絵本の貸出の利用方法を変えて再開しましたが、現在のところクラスの3分の1から半数くらいのご利用にとどまっています。私たちは絵本の力を借りて子どもの豊かな心、その心に共感する大人の心、両者が結び合う絆を深めてほしいと願っています。

園長 平野弘和